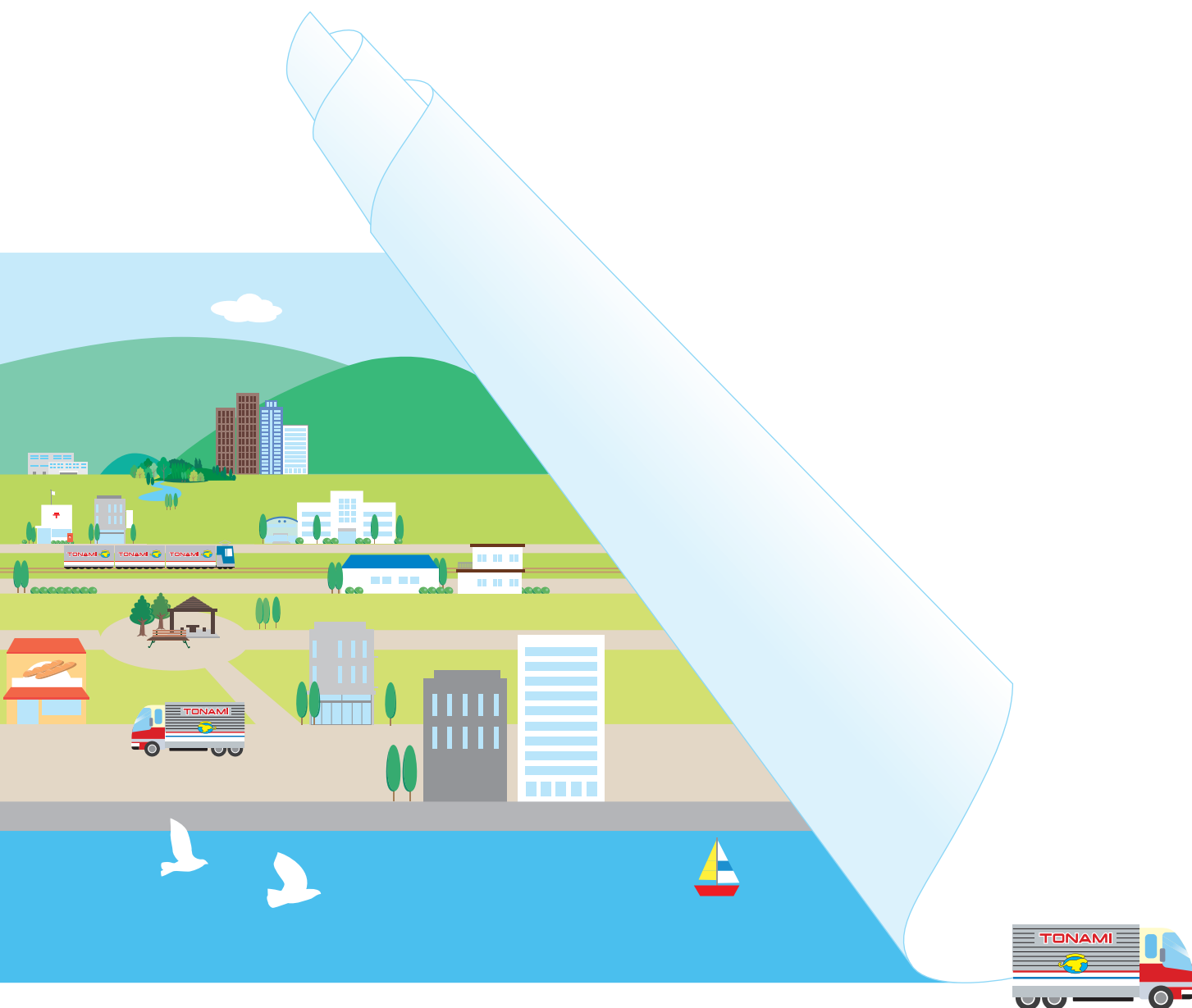




Corporate Social Responsibility Report

CSR報告書 2016



トナミホールディングス株式会社

トナミホールディングスグループは、
安全・安心な物流サービスを提供する
ライフラインとしての役割・機能を果たすことにより、
みなさまの生活を支援し社会に貢献してまいります。

トナミホールディングス株式会社
代表取締役社長

綿貫 勝介



More Than Transportation

～物流を超えて その先の次元へ～

経済活動の大動脈である国内貨物輸送は、大きな転換期を迎えており、トラックドライバー不足の深刻化や、環境負荷軽減の観点からも、輸送のモダリティが急速に進展しております。

これにより、原材料や部品、製品の輸送方法にも変化が生じるなど、生産や販売体制も変わろうとしています。

このような中、企業は継続的に事業を行うために基盤整備や課題を乗り越えるための改革、事業活動やビジネスモデルの見直しなど、自ら変化を先取りし進化していくことが求められています。

トナミホールディングスグループとしても、少子高齢化の進行や法令整備など事業環境の変化著しい中であっても、労働力確保の深刻化に迅速に対処するなど、地域の人々の経済活動や生活環境をサポートし社会に貢献してまいります。

社会的責任を果たす

トナミホールディングスグループは、第20次中期経営3ヵ年計画（2015年4月1日～2018年3月31日）の2年目の取り組みに邁進しております。

国内外の物流の役割機能も激変する中で、事業の安定収益基盤の構築をめざし、収益体制の強化、拠点投資の推進をはかり、人材採用・育成の強化など経営課題の解決に向けた取り組みの着実な進展により、持続的な成長をはかってまいります。

その実現のためにも、企業の経営理念やビジョンに掲げた基本精神は遵守しつつ、既成概念や慣行から脱皮し、より強靱でしなやかな機動力のある経営体質の構築に取り組んでおります。コンプライアンス・コーポレートガバナンスに裏付けられた「高品質経営」に主眼をおいた「中期経営3ヵ年計画」の進展をはかり、企業価値の一層の向上に努めております。

また、成長戦略を支えるICT機能のオープン化による利活用を高め、お客様のサプライチェーンの革新、生産性・コストパフォーマンス・物流品質の向上等による物流サービスの更なる強化に邁進しております。

安全・安心な物流サービスの提供を基本とする物流企業として、働きやすい職場環境の整備やITを最大限に活用した提案力の強化に取り組んでおります。

その結果、物流サービスの一層の高品質化を進展、生活環境のサポートにより、ライフラインとしての役割・機能の向上をはかり、社会の期待に応えてまいります。

コンプライアンスの一層の強化・徹底

コンプライアンスを基軸とした社会的責任経営を中期経営計画の骨子に掲げ、よりグローバルな視点で、継続的な社会貢献をめざしております。

物流業界を取り巻く環境が刻々と変化する中、法務部を担当として法的・契約上のリスクへの適切かつ機動的な対応を強化しています。

トナミグループ社員行動規範に則り、「事業活動のあらゆる局面において、コンプライアンスの徹底」を行動原則として、事業における一層の価値創造とCSRを果たす経営に邁進してまいります。

そして、業務改善プロジェクトによる事業所の点検指導、監査室による業務監査の定期的な実施により、適正業務運営を基本とするコンプライアンス体制の一層の強化に取り組んでおります。

「輸送の安全を確保すること」、「地球環境に配慮すること」、「法令やルールを守ること」、「人権を尊重すること」、「地域社会に貢献すること」は、物流企業として必須事項でもあり、コーポレートガバナンスの更なる強化により、「コンプライアンス経営」を推進しています。

未来へつなぐ

社会を担うインフラ機能として、安全な社会づくりを基本に、物流の効率化・デジタルタコグラフの活用によるエコドライブの徹底、共同運行・共同配達等の取り組みを通じ、エネルギーロスを生まない環境に配慮した事業活動を推進することにより、地球環境の保全に努めております。

また、未曾有の災害が多発していることもあり、大規模災害規程を基軸として、緊急時に基幹業務情報を迅速にとらえ、災害時の物流企業としての役割機能を発揮するため、事業継続計画（BCP）として集大成をはかるよう努めております。

そして、企業の成長と環境保全、次世代を担う継続的かつ持続可能な活動によって、未来へつなぐ社会的責任を果たしてまいります。

当社グループの活動を多少なりともご理解を頂き、今後ともみなさまには忌憚のないご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

トナミホールディングス グループ 経営理念

「和」の経営理念を実践し、
経営基本方針に基づいて
「企業の社会的責任(CSR)」
をはたしていきます。

トナミホールディングスグループは、お客様に「安全・確実・迅速なサービス」を提供することを通して事業の発展をはかり、株主の皆様へ「適正で安定した配当」を継続することを経営の基本方針としています。

この方針に基づいて、収益性を確保し、常に企業価値の向上に努め、その成果を株主の皆様、お客様、取引先、従業員、社会と適正に分ち合うことが、トナミホールディングスグループの使命であると考えています。

編集方針

- この報告書は、2015年度を中心としてトナミホールディングスグループが行ったCSR活動を紹介しています。
- 構成にあたっては環境省「環境報告ガイドライン2012」を参考にしています。

対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日（一部対象期間外の活動も含みます。）

対象範囲

トナミホールディングスグループの活動実績を対象とし、中核事業会社トナミ運輸の報告を中心としています。

C o n t e n t s

トップメッセージ	1
経営理念	2
事業報告	3

特集

I お客様とのパートナーシップの構築	4
II グリーン物流の推進とリサイクル事業	7

社会とのつながり

地域社会とのコミュニケーション	9
-----------------	---

環境とのつながり

環境マネジメント	11
地球温暖化防止・大気汚染防止	13
廃棄物削減への取り組み	16

社員とのつながり

安全な社会づくりを目指して	17
人材育成と働きやすい職場づくりを目指して	19

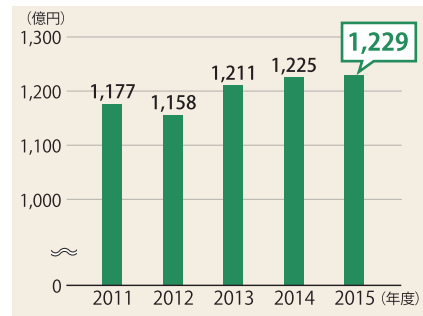
企業統治

コーポレートガバナンス体制	21
法および社会倫理の遵守	23

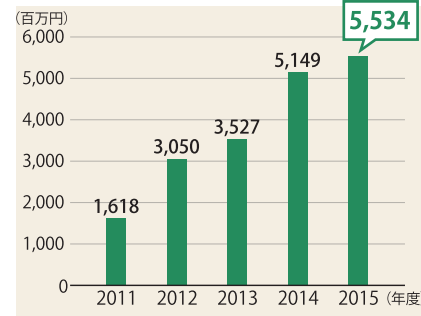
トナミホールディングスグループの概要	25
--------------------	----

事業報告2015年度(2015年4月～2016年3月)

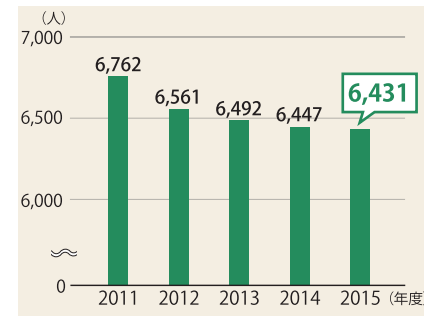
● 連結売上高の推移



● 連結経常利益の推移



● 連結従業員数の推移

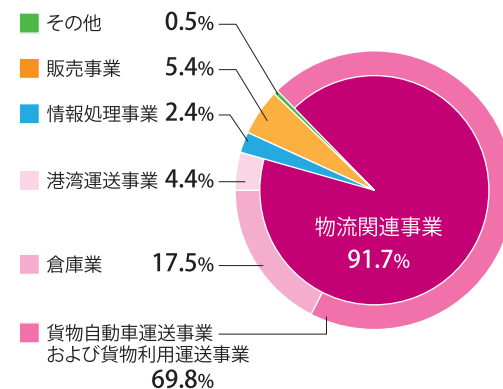


事業別連結営業収益

事業別	金額(百万円)	構成比(%)	前期比増減率(%)
物流関連事業	(112,777)	(91.7)	(0.1)
貨物自動車運送事業 および貨物利用運送事業	85,887	69.8	△0.1
倉庫業	21,490	17.5	2.4
港湾運送事業	5,398	4.4	△5.9
情報処理事業	(2,897)	(2.4)	(△3.9)
販売事業	(6,624)	(5.4)	(8.5)
その他	(659)	(0.5)	(△6.4)
合 計	122,959	100	0.3

(注) その他欄には、自動車修理業、旅行業、ダイレクトメール業、その他事業の各収入を含めて表示しています。

● 事業別連結営業収益構成比



第20次中期経営3ヵ年計画(2015～2017年度)

スローガン “Leading step up 2017” さらに高品質経営をめざして!!

「グループの構造改革を礎とした業容拡大を実践していく3ヵ年」と位置付け、物流パートナーとしてお客様とともに成長を維持していくためにも、グループ全体の「質・総合力」を高め、さらなる「高品質経営による新グループ体制の確立」をめざす。

高品質経営

コンプライアンス／ガバナンス

物流品質

事業戦略

人材育成・スキル

関連事業

3PL事業

重点事業

特積み事業

重点事業の成長

倉庫(場内作業・配送)

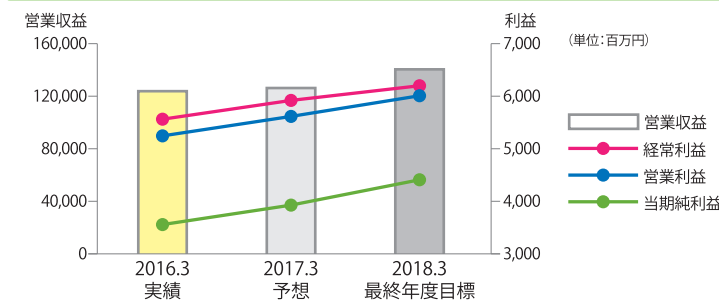
運用管理・現場改善

全体最適(企画・運営)

基本方針

- (1) 特積み部門の一層の収益力強化をはかる。
- (2) 重点事業基盤の強化をはかる。
- (3) 新たな事業戦略の推進により成長をはかる。
- (4) 人材育成・採用強化をはかる。
- (5) 最上級の物流品質をめざす。
- (6) コンプライアンス体制の強化による高品質経営をめざす。

業績目標

特集
I

お客様とのパートナーシップの構築

お客様の立場で品質へのこだわりを考え、お客様に心から満足していただける商品・サービスの提供を目指しています。

品質方針 ～物流品質の向上のために～

トナミ運輸は、総合物流企業として社会に寄与し、常に安全、確実、迅速なサービスを提供し、顧客ニーズに対応しています。

物流サービスの提供にあたっては、効率化をはかり、さらにより高い品質を目指し、事業が絶えず成長を続けるため、品質方針に基づいて行動します。

トナミ・クオリティ10 ～「物流品質でおもてなし」～

トナミ運輸は、お客様の声を物流品質の向上に役立てようと、5,000社以上のお客様にアンケートを実施しました。「物流品質とは何か」との質問をしたところ、「商品事故を起こさないことが物流品質である」とのご回答をいただきました。そうした声にお応えるために、物流品質の向上を目指して組織体制づくり、見直しを行いました。そして、商品事故を起こさないために、トナミ運輸独自の7つの取り組みを全事業所で展開し、その結果、5年間で商品事故を40%以上減らすことができました。

お客様のトナミ品質に対するより高い期待に応えるために、最上級の物流品質(おもてなし品質)実現を目指して、2015年度より改定したトナミ・クオリティ10を推進しています。

物流品質マイスター制度

トナミ運輸は、2009年10月に、東京海上日動火災保険(株)様のご協力を得て、業界初となる「物流品質マイスター制度」を導入しました。「物流品質マイスター」は「物流品質への貢献やノウハウの継承」「技能マネジメント力」が優れた社員の中より、社内外の意見を踏まえ認定するものです。導入初年度は2名の物流品質マイスターを選任してスタートし、2016年10月に7年が経過しました。その間、12名が物流品質マイスターに選任され、トナミ運輸の物流品質向上の取り組みに参画し一定の成果を挙げてきました。今後も、さらなる物流品質向上を目標に、ノウハウを社内共有し、すべての事業所に展開していきます。

品質方針

- 顧客の要求事項を満たし、信頼と満足を戴きます。
- 品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善します。
- 法令、規則、社会規範を遵守します。
- 組織の各部署で具体的な品質目標の設定をします。
- 品質目標の達成度を検証し、見直します。

トナミ・クオリティ10

- 1 「物流品質マイスター」によるトナミ品質の全事業所展開
- 2 「全店共通ルール10ヶ条(トナミルール)」による業務品質の全事業所標準化
- 3 「商品事故削減計画」により全事業所で毎月、継続的改善(PDCA)
- 4 プラットホーム上の商品を守る「養生板」を全事業所に配備・活用徹底
- 5 プラットホーム上に「24時間監視カメラ」を設置し、商品事故防止に活用…本社からもRC監視可能
- 6 現場第一主義: 社外の専門家を含む多様なメンバーでの現場点検指導
- 7 お客様へ「物流“安心”品質」(運送保険)をご案内・ご提供
- 8 現場主体の品質作り: 新トナミQCチーム活動。自発性に基づく本物の現場力
- 9 品質標準化: 品質DVDシリーズによる社内研修
- 10 トナミ“一貫”品質の提供に向けた他社への働きかけ…異常発生時の早期連絡体制



2016年度認定の物流品質マイスター

3PL (サードパーティロジスティクス) 事業

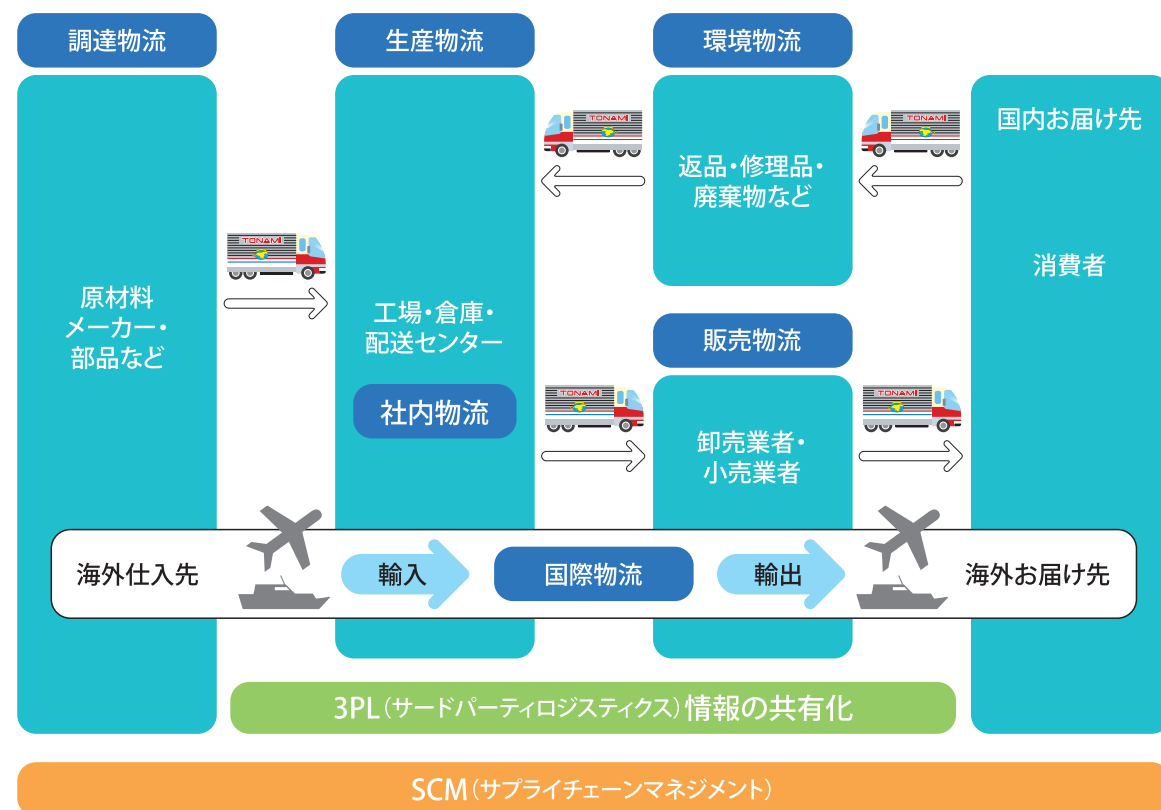
お客様の物流機能の効率化や高度化をサポートするアウトソーシングサービスです

お客様の物流機能の効率化や高度化を目的とした包括的なアウトソーシングサービスです。輸送・保管など基本的な機能のほか、情報システムを活用した受発注・在庫管理・仕分け・梱包など関連する業務を提供しています。

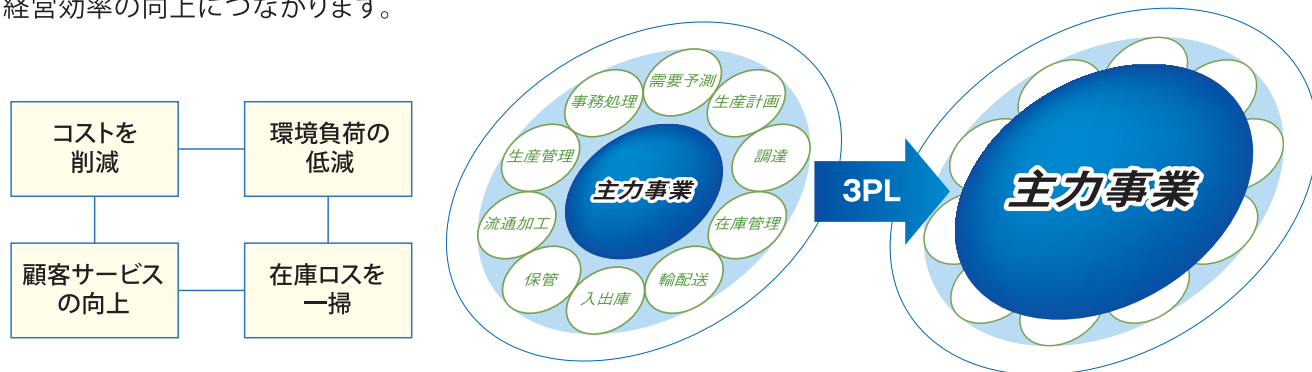
アセット型はもとより、自社保有の資産にとらわれないノンアセット提案も行っています。社会全体が環

境に対する関心が高まる中、省エネ設備・技術を導入した物流施設を増やし、環境負荷を低減する取り組みを進めています。

近年、薬事法の改正により、需要が高まった医薬品関係の物量増に対応するため、2012年12月より、富山流通センターで「医薬品製造業」「卸売販売業」の許可を取得し、医薬品の扱いを開始しています。



すべての物流業務をトナミ運輸におまかせいただくと、お客様は主力事業に専念でき、経営効率の向上につながります。



TSM (トナミ・サプライ・メンテナンス) 事業

24時間365日、お客様の「目」と「耳」になり、物流を監視・管理し高品質な配送を提供します

TSM (トナミ・サプライ・メンテナンス) 事業とは、「お客様の24時間365日の物流ニーズ」に対応するために、既存の全国物流ネットワークとコンピューターシステムを融合させた新しい物流サービスです。インターネット環境を利用したマルチベンダー型

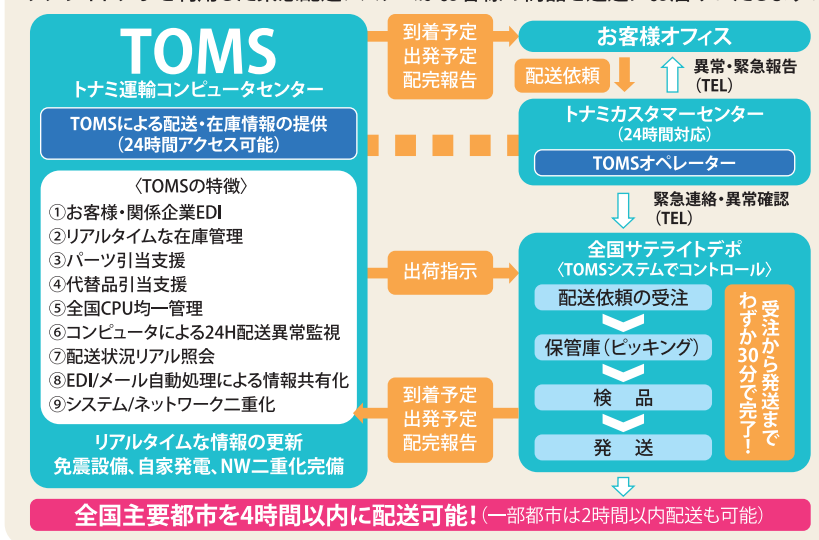
物流管理システムにより、お客様と物流業者による配送状況や在庫状況をリアルタイムで共有化を可能にし、それぞれの顧客ニーズにマッチした物流システムの構築、サービスの提供により物流の最適化をはかります。

サービス内容

- 1 全国に配置した専用拠点とコンピューターシステムにより、24時間365日対応の配送が実現可能です。
- 2 専用システムによりお客様（メーカー・販売店・エンドユーザー）がリアルタイムに必要な物流情報を取得、確認できます。
- 3 配送工程・入出庫工程などすべての工程に対するレポート機能が充実しています。
- 4 リアルタイムでのデータ更新、ならびに照会が可能です。

● 緊急配送システム概要

サテライトデポを利用した緊急配送システムがお客様の商品を迅速にお届けいたします！



国際物流事業

国際物流サービスの充実化をはかり、お客様のグローバル化をサポートします

経済やビジネスのグローバル化に合わせて世界各国との輸出入が増えている今日、トナミホールディングスグループではトナミ運輸および関連会社との連携により地球規模のネットワークを張り巡らせています。事業戦略の一環として、2010年1月にタイ国に現地法人を設立し、2011年、2012年とタイ現地企業2社を子会社化しました。中国・大連においては、

2011年1月に現地法人を設立し、2013年1月には中国国内での陸運免許を取得し実運送業務が可能となりました。これらをアジアにおける拠点と位置付け、さらなる業務拡大に取り組んでいきます。



引越事業

引越やオフィス移転を場面に応じてトータルサポートします

住まいの引越や事務所移転、イベント会場の設営、精密機器の輸送、トレーニング機器の輸送と設置、家具の組み立てと設置、産業廃棄物の運搬、楽器の輸送、雑誌の陳列作業等、幅広く業務を行っています。

国内で蓄積したノウハウを活用し、海外引越の拡大強化に取り組んでいます。



グリーン物流の推進とリサイクル事業

環境負荷低減への取り組みは、業種を問わず、企業に求められています。
トナミホールディングスグループでは、お客様に総合物流企業として、提案・サポートを行っています。

モーダルシフトの推進

グリーン物流と安全物流を目指して鉄道輸送の比率を高めています

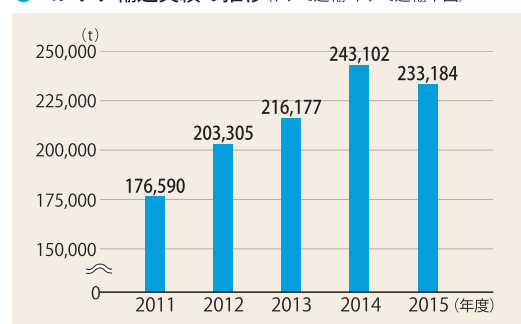
トナミ運輸・トナミ運輸中国は、モーダルシフトへの取り組みの一環として、コンテナによる鉄道輸送を行っています。



トナミコンテナ

トラック輸送の削減による環境負荷低減と同時に、交通事故防止や長距離運行等の効率化につながっています。

●コンテナ輸送実績の推移 (トナミ運輸・トナミ運輸中国)



モーダルシフト最優良事業者賞 (大賞) を受賞しました

被表彰者

トナミ運輸株式会社
第一貨物株式会社
久留米運送株式会社
ジャパン・トランズ・ライン株式会社

功績事項

東京発九州行
31フィートコンテナ共同運行について
(4社連名案件)

トナミ運輸は、第一貨物(株)、久留米運送(株)と共同して、関東～関西～九州間の幹線輸送における良質なサービス提供と運行効率化を目指し、2012年4月に合併会社となるジャパン・トランズ・ライン株式会社を立ち上げ、幹線輸送の一部の共同化を進めてきました。

その輸送のさらなる効率化を目標に、2015年11月より東京発九州行の貨物について、31フィート鉄道コンテナによる東京貨物ターミナル駅～福岡貨物ターミナル駅の間で鉄道輸送へのモーダルシフトを実施しました。

特筆すべきは、3社の荷物を1基のコンテナに混載することであり、これによりコンテナを常に満載状態で輸送する効率的な輸送形態を実現し、さらに、2016年8月からは、帰り荷として九州発東北行の貨物の輸送も開始しました。

この取り組みに対して、国土交通省より、支店における貨物の積載、合併会社を通じた効率的な輸送手配、着地からの効率的な転送など、3社の協力により実現した輸送形態は、改正物流効率化法が目指す効率的な輸送に合致した括目すべき案件であると評価をいただき、このたびの「モーダルシフト最優良事業者賞 (大賞)」の受賞に至りました。



機密文書リサイクル「エコロックシステム」

リサイクルとセキュリティを両立させる取り組みを推進しています

トナミ運輸は、リサイクルとセキュリティを両立させた機密文書リサイクルシステム「エコロックシステム」を事業展開しています。北陸地区に事業拠点を設け、地域企業と共同出資のジェスコを中心に、行政や病院、金融、生損保など、あらゆる業種で機密文書を一度に大量に排出する場合にご利用いただいています。

また、「トナミエコロックシステム便」は保管場所の少ないオフィスにおいても、1個口からご利用のできる身近でお手軽な商品です。セキュリティを付加した輸送モードにより回収と機密消滅が可能となっています。

エコロックシステム

オフィスで不要になった重要書類を、安全・確実に回収・消滅いたします。



廃家電製品 (エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機) の収集運搬業務・集積場の運営

家電リサイクルで社会に貢献しています

トナミホールディングスグループでは廃家電製品の法定集積場を運営しています。北陸トナミ運輸は富山県内、トナミ第一倉庫物流は静岡県内、トナミ首都圏物流は神奈川県内の一部地域を担当しています。北陸トナミ運輸・トナミ第一倉庫物流とも廃家電製品事業運営管理会社のアールステーション様より、

集積場を適正に運営している事業所に贈られる「優良S Y」を連続で受賞しています。



集積場

水素エネルギー利用の新たな可能性拡大を目指して

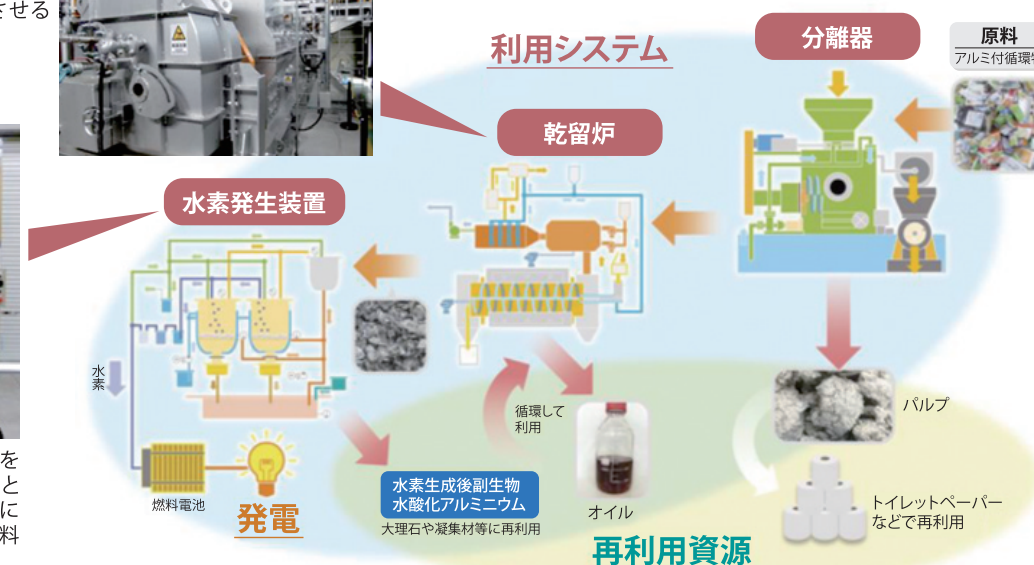
アルミ廃棄物の新グリーンエネルギー利用システムの研究開発をしています

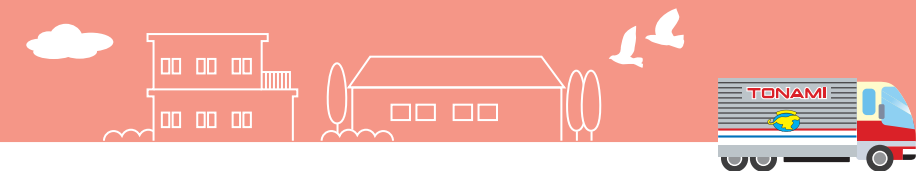
アルハイテック(株)は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募する「戦略的省エネルギー技術革新プログラム」に採択されました。

空気を絶った状態で加熱することで燃焼を抑え熱分解させる装置



アルカリ水溶液に触媒を加えた独自開発の溶液と抽出アルミとの化学反応により発生した水素を、燃料電池に供給する装置





地域社会とのコミュニケーション

トナミホールディングスグループは、福祉施設への支援活動や次世代育成など、さまざまな地域活動に参加し、社会に貢献しています。

福祉支援活動

一般財団法人トナミホールディングス松寿会は、1994年3月にトナミ運輸（現トナミホールディングス）の創立50周年記念事業として、社会福祉の増進をはかり、もって豊かで住みよい社会の発展に寄与することを目的に、設立された団体です。

2014年4月1日、富山県内に限定されていた事業活動を全国で、かつ、より自由に行えるように財団法人から一般財団法人へ移行し、同時にトナミ松寿会からトナミホールディングス松寿会へ名称変更しました。

2015年12月28日には、富山県内の社会福祉法人2件、特定非営利活動法人1件、石川県内の社会福祉法人1件の計4団体に福祉車両の贈呈、ならびに災害義援金寄付事業として、富山県共同募金会を通じて茨城県台風18号等災害義援金を寄付しました。

また、本年度においては、12月26日に富山県内の社会福祉法人3件、石川県内の特定非営利活動法人

1件の計4団体に福祉車両等を贈呈、並びに富山県共同募金会を通じて昨年発生した熊本地震の義援金を寄付しました。

設立から今日までに、車両の寄贈は、延べ84台となり、また、災害に対しての義援金の寄付は2件となりました。



寄贈車両



贈呈式

バドミントン活動

トナミ運輸バドミントンチームは、国内はもちろんのこと、国際大会でも活躍しています。2016年5月からチームに新しく加入した大堀彩選手は、同年10月に開催されたタイ・オープン2016の女子シングルス種目に出場し、格上の相手に勝利し初優勝を飾りました。男子ダブルスの園田・嘉村ペアは、国内最高峰の大会、2016年度全日本総合大会男子ダブルス優勝2連覇、香港オープン初優勝・BWFスーパーシリーズファイナルズ準優勝と国内外で大活躍、12月末日発表の世界ランキングで3位につけています。

また、国内各地から依頼されるバドミントン講習会等にも選手を派遣し、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。ジュニア選手を対象にバドミントン講習会を行い、スポーツの素晴らしさを共有し、2020年に東京で開催されるオリンピックに希望と夢をとものに描き始めています。



大堀彩選手



嘉村健士選手・園田啓悟選手



バドミントン講習会

専門技術者等特別講師招聘事業

トナミ運輸は、富山県立高岡商業高等学校より専門技術者等特別講師招聘事業の講師派遣の要請を受け、講師を派遣しました。専門技術者等特別講師招聘事業とは、変動する経済社会に対応するべく富山県教育委員会が発足させたもので、産業界の新しい情報や高度化する技術などについて、それぞれの専門的な立場から生徒に対して習熟活動を行うことを目的としています。

授業は2016年2月2日に行われ、三枝保弘取締役経営企画室長が講師を務めました。高岡商業高等学校流通経済学科の1年生、2クラス100名を対象として、「ビジネスと流通（運輸業）」をテーマに4時限の授業が行われました。

授業では、生産拠点のグローバル化が進展する中、物流の著しい変化に伴う業務の効率化や経営の見え

る化に向け、ICTの活用が急速に進んでいる高度情報化社会を紹介しました。

そのような中、トナミ運輸は顧客企業への物流の役割・機能の充実をはかり、物流サービスの提供を通じて、地域社会の活性化へ貢献する社会的責任を果たす取り組みを進めていることも紹介しました。

今後もこうした活動の事例紹介を通じて、未来の物流を担う人材が生まれるよう、期待をしています。



三枝保弘取締役経営企画室長

インターンシップ実施

京神倉庫では2005年より、京都産業大学からの依頼に基づき、同校3回生を対象に毎年インターンシップ生を受け入れています。

本年度は男子学生1名が8月22日から9月2日までの10日間にわたり、高槻支店にて就業体験を行いました。

インターンシップでは、学生が実際の仕事に触れることにより自身がイメージしている業務内容をより深めることができ、就職活動におけるミスマッチを防ぐことにつながります。学生側だけでなく企業側にも職場の活性化等のメリットがあります。

限られた時間の中での研修となりましたが、今後の学生生活や就職活動においてこのインターンシップが生かされることを期待しています。



インターンシップ修了証の授与

富山マラソン2016

2016年10月30日に「富山マラソン2016」が開催されました。

今回が2回目となる大会でしたが、当日は晴天に恵まれ、約13,000人の市民ランナーが立山連峰を眺めながら駆け抜けました。

この大会は、多くの県内企業に認知された県民参加型のフルマラソン大会で、50社を超える企業が協賛しています。トナミ運輸も地域活性化への取り組みの1つとして第1回大会から協賛パートナーの一員として、支援・協力をしています。

当日は大会をスムーズに運営するため、ボランティアスタッフと協力して、スタート地点での参加者

の手荷物の積み込みや、ゴール地点での荷物の引き渡しなどを行いました。

来年も引き続き大会を盛り上げていきます。





環境マネジメント

私たちは、安全で確実・迅速な輸送サービスをお客様に提供し、ご満足いただくことが第一の使命であると考えます。同時に私たちを取り巻く環境問題についても、私たちにふさわしい責任を果たすことを目指します。

環境方針

トナミ運輸は、環境活動を推進するための環境マネジメントに取り組んでいます。次の環境方針を定め、さまざまな活動に目標を持ち、結果を見直し、継続的改善に向けて、体制強化に努めています。

地球環境を守る事は、あらゆる生命の生存に関わる最重要テーマであると認識し、「輸送を通じ社会に寄与し、地球環境の保全に努める」を基本理念として、以下の方針に基づいて取り組みます。

- 1 輸送サービスを提供することによって生じる環境汚染に対して、次の事を守ります。**
 - ①環境に優しい車の導入を図ります。
 - ②エコドライブの実践に取組みます。
 - ③物流の効率化を通じて、地球環境に優しい物流システムを構築します。
 - ④リサイクルシステムを構築し、循環型社会づくりに貢献します。
 - ⑤環境に優しい商品の開発、提供を推進します。
 - ⑥省資源、省エネルギーに継続的に取り組み、日々、改善を図ります。
- 2 環境に関する国・地方自治体等の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、環境保全に努めます。**
- 3 環境目的及び環境目標を具体的に定め、定期的にレビューを実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を致します。**
- 4 社内環境教育、啓発活動を通して全従業員に本方針を周知すると共に、一般にも公開し、さらに、地域社会への環境保全活動に積極的に参加します。**

環境負荷軽減への取り組み

トナミホールディングスグループは、「Do Eco!」をスローガンに従業員一人ひとりが日常、気軽にできる5つの取り組みを設定しています。

5つの
取り組み

- ① 省電力の推進
- ② コピー用紙使用量の削減
- ③ ゴミ分別の徹底
- ④ 安全な走行を心掛けよう
- ⑤ アイドリングストップの実施

トナミ運輸は環境方針を定め、日々の活動において可能な限り環境に配慮するよう努めています。



ISO14001（環境マネジメントシステム）の活動とグリーン経営認証の取得状況

トナミ運輸は、2003年10月、本社において環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。以来13年間、毎年の定期審査と3年ごとの更新審査において基準に適合していることが認証されています。今後も環境負荷軽減のための目標を設定し、1.Plan（計画）2.Do（実行）3.Check（点検）4.Action（見直し）を繰り返すことによって、その達成に向けた取り組みを実践し、継続的改善をはかっていきます。



ISO14001適合証明証

2015年度取り組み実績

◎：向上 ○：維持 ×：低下

実践項目	取り組み実績	自己評価	ページ
環境にやさしいトラックの導入	低公害車29台を導入	◎	P14
物流の効率化と地球環境にやさしい物流システムの構築	鉄道によるコンテナ輸送継続実施	○	P7
	車両積載率 2.6%向上(2014年度比)	◎	P13
エコドライブの実践	デジタル式運行記録計の活用	○	P14
	使用燃料削減、燃費維持	○	P13
リサイクルシステムの構築	機密文書リサイクル(エコロックシステム)事業の取り組み	○	P8
環境にやさしい商品の開発・提供および調達	コピー用紙、トイレトペーパー、段ボールのリサイクル品購入	○	P16

2015年度省資源・省電力の取り組み実績

実践項目	2015年度目標		2015年度実績	評価
	目標	目標値		
電力使用量の削減(トナミ運輸信越、トナミ運輸中国含)	2014年度比1%削減	23,298,014kWh	22,695,811kWh	◎
コピー用紙使用量の削減(トナミ運輸本社)	2014年度比1%削減	985,050枚	974,000枚	◎

また、トナミホールディングスグループの物流事業会社8社は、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が運営しているグリーン経営認証制度に適合していることが認証されています。今後もグリーン経営推進マニュアルに基づきエコドライブや低公害車の導入などの取り組みを実施しながら、物流における環境保全の実効性向上につなげていきます。

グリーン経営認証取得会社一覧

- トナミ運輸 2事業所
- トナミ運輸信越 5事業所
- 福井トナミ運輸 2事業所
- 北陸トナミ運輸
- 関東トナミ運輸 5事業所
- 阿南自動車 7事業所
- 京神倉庫 2事業所
- 北海道トナミ運輸 6事業所



グリーン経営認証登録証



地球温暖化防止・大気汚染防止

CO₂などを中心とする温室効果ガスの増加は、地球温暖化に大きく影響します。低公害車の導入や、輸送の効率化、各種省エネ設備の導入など、温室効果ガス削減のための取り組みを積極的に進めています。

CO₂排出量の削減に向けて

トナミ運輸・トナミ運輸信越・トナミ運輸中国は、エコドライブの実践や低公害車や省エネ設備の導入など環境負荷低減への取り組みを進めた結果、2015年度のCO₂総排出量は、101,868t-CO₂となりました。
また、エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)において特定貨物輸送事業者として、貨物

輸送のために使用した燃料から発生するCO₂総排出量を2016年までに2011年度比で5.2%削減することを目指し、4つの項目に取り組んでいます。
2015年度のCO₂総排出量は82,000t-CO₂となり、2011年度の92,100t-CO₂と比較して約11%削減することができました。

2011～2015年度CO₂排出量(トナミ運輸・トナミ運輸信越・トナミ運輸中国全事業所と全車両(リフト含む)対象) (単位:t-CO₂)

使用エネルギー	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2011年度比
軽油	91,936	89,516	89,139	85,785	84,459	91.9%
ガソリン	1,297	1,255	1,190	1,131	991	76.4%
A重油	274	235	235	247	263	96.0%
LPG(リフト)	745	813	847	762	729	97.9%
CNG	2,110	2,240	2,379	2,456	2,502	118.6%
LPG(湯沸)	456	448	395	360	324	71.1%
灯油	331	387	266	229	239	72.2%
都市ガス	68	52	40	38	39	57.4%
電力	9,461	12,191	13,719	13,128	12,323	130.3%
CO ₂ 総排出量	106,678	107,137	108,210	104,136	101,868	95.5%
そのうち輸送に伴うCO ₂ 総排出量	92,100	89,300	88,000	84,400	82,000	89.0%

※温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(2010.3改正)参照

2012～2016年度の取り組み(特定貨物輸送事業者として)

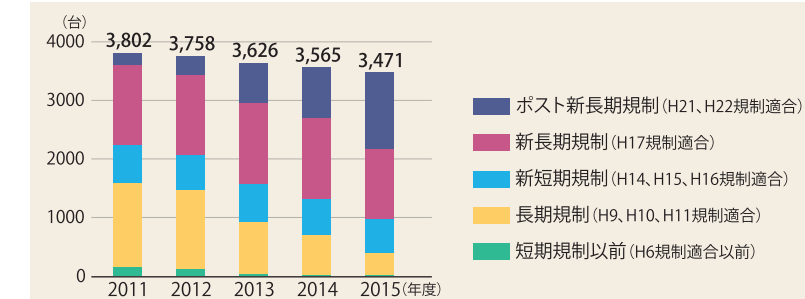
取り組み項目	期待効果	進捗状況(2015年度)
エコドライブの実践 全車両/燃費3%の向上	原単位3.0%向上 (2,244t-CO ₂ 削減)	デジタル式運行記録計の活用や エコドライブ教育等を継続的に実施中
輸配送コースの見直し 空車キロの削減(運行車1運行5km、集配車10km/月)	原単位1.0%向上 (742t-CO ₂ 削減)	車両の走行キロ削減等の効率化を推進中
輸送効率の改善 積載率1%の向上	原単位0.7%向上 (522t-CO ₂ 削減)	車両積載率96.0%(2014年度比2.6%向上)
モーダルシフトの実施 長距離運行系統 (東京～広島)の鉄道コンテナ化 2便/日	原単位0.5%向上 (500t-CO ₂ 削減)	鉄道によるコンテナ輸送継続実施中

環境にやさしいトラックの導入(NOx・PMの削減)

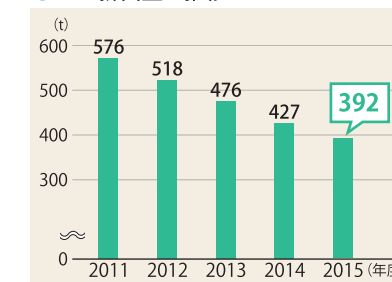
トナミ運輸・トナミ運輸信越・トナミ運輸中国は、輸送に関わるNOx、PMなどの大気汚染物質削減をはかるため、環境に配慮したトラックを導入しています。2015年度は新たに314台を導入し、そのうち天然ガス自動車(CNG車)は29台導入しました。その結果、前年度と比べ、NOxを35t、PMを3t削減しました。



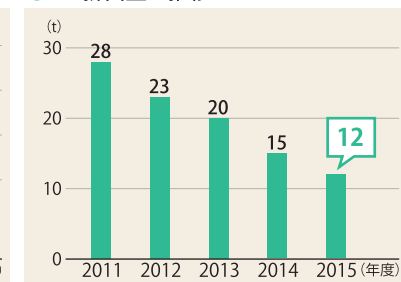
●トラック保有実績の推移 ※信越・中国含



●NOx排出量の推移



●PM排出量の推移



エコドライブの実践

エコドライブとは、一言で言うと「環境に配慮した経済運転」のことです。

やさしい発進を心がけたり、無駄なアイドリングを止める等を行って燃料の節約に努め、地球温暖化に大きな影響を与えるCO₂の排出量を減らす運転を実践しています。

■エコドライブ推進の取り組み

エコドライブは、「地球環境にやさしい」「燃料費の節約」「安全運転につながる」「車両にやさしい」と、一石四鳥であることをドライバーの一人ひとりが認識し、その結果は、社内表彰制度を設け、エコドライブ成績優秀者に対し表彰を行っています。

■駐停車時はアイドリングストップ

アイドリングストップは、自動車の燃料消費量を抑え、CO₂を削減します。トナミ運輸では、アイドリングストップワイヤー(キー抜きロープ)をすべての集配ドライバーに携帯させ、短時間車を離れる際も、必ずエンジンをストップするようにしています。



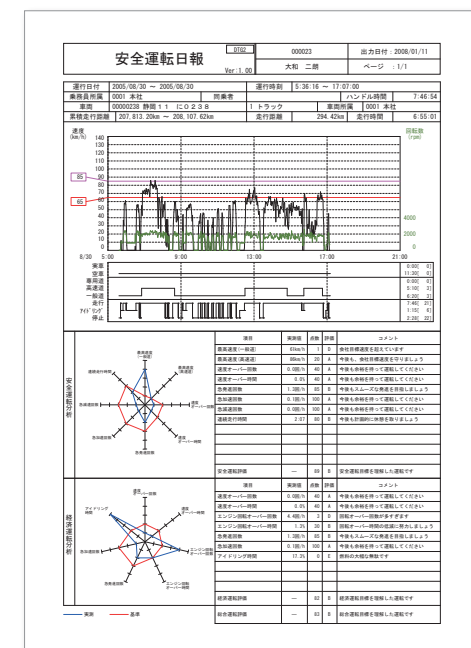
アイドリングストップワイヤー

デジタル式運行記録計の活用

トナミホールディングスグループは、デジタル式運行記録計※を導入し、車両に装着しています。

このシステムの導入により、危険運転や事故発生の記録はもちろん、安全運転の証明もできるようになり、交通事故防止だけでなく、模範運転について指導ができるようになりました。

※デジタル式運行記録計は、時間・距離・速度の3要素を含むすべてのデータを数値で記録をとり、画像での解析・表示ができます。



運転日報



社会貢献活動

トナミ運輸労働組合は、2016年5月5日に結成70周年を迎えました。これを機に、CO₂削減による地球温暖化防止および荒廃しつつある里山の再生を目的として「トナミの森」CO₂削減・里山再生プロジェクトを立ち上げ、2016年7月23日に富山県高岡市福岡町上向田地区内に、苗木250本（桜130本、栗60本、コナラ30本、クヌギ30本）を植栽しました。今後も定期的に除草や補植、水やりなどを行い、将来にわたって森づくりに取り組み、社会貢献活動を続けていきます。



「トナミの森」CO₂削減・里山再生プロジェクト

参加者コメント

トナミ運輸中央支店
松原康浩



前日に苗木の引き取り、選別、水やりをし、活動当日は全国から参集したトナミ運輸労働組合の各支部三役分会長と植林活動を行いました。
私達の活動が地球温暖化の防止はもとより、植林することでクマやイノシシ等との境界を保つ役割があるとのことで、地域の方にも喜ばれる活動になることを願い、今後も活動していきます。

各種省エネ設備の導入

太陽光発電

トナミ運輸は、久喜支店および富士支店に太陽光発電を導入しています。久喜支店の月間電気使用量は約46,500kWhを予測していますが、そのうち約900kWhを太陽光により賄うものです。富士支店も同量の発電量を予定しています。
今後建設を予定している支店においても太陽光発電を積極的に導入する予定です。



富士支店の太陽光パネル

屋上緑化設備

トナミ運輸は、節電対策の1つとして、川崎支店の睡眠室棟に屋上緑化を採用しています。夏場は外からの熱流入を81%カットし、冬場は室内からの熱放出を45%カットできる点が特徴となっています。このためエアコンの使用量が減り、年間2,600kWhの節電と1.8t-CO₂排出量の削減が期待できます。



屋上緑化

省エネ照明の導入

トナミ運輸では、「エネルギー使用合理化支援事業者補助金」制度を利用し、2009年1月に浦和支店全館、2011年2月に大阪中央支店全館に省エネ設備（照明器具）を導入しました。
また、2014年度から全国19のトラックターミナル

および倉庫にLED照明を導入しました。

これらの省エネ設備の導入により、電気使用量で約1,000,000kWh／年（推計）の節電とCO₂排出量で410t-CO₂削減することができました。

今後も継続してLED照明の導入を行っていきます。

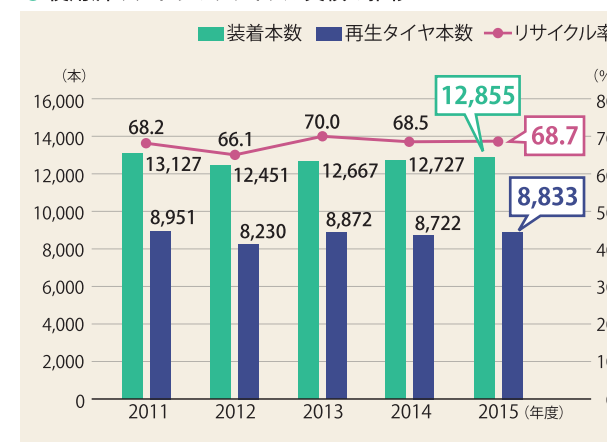
廃棄物削減への取り組み

廃棄物削減に向けて従来の取り組みを見直し、継続的改善に努め、ゴミ減量化とリサイクルの推進を行っています。

使用済みタイヤのリサイクル

トナミ運輸・トナミ運輸信越・トナミ運輸中国は、資源の有効利用をはかるため、使用済みタイヤはすべて再生タイヤメーカーに引き取ってもらっています。また、積極的に再生タイヤを使用しています。

● 使用済みタイヤのリサイクル実績の推移



環境にやさしい商品の利用

トナミホールディングスグループは、できるだけ環境への負荷が少ない商品の購入・利用を推進しています。
トイレットペーパー、段ボール、コピー用紙、事務用品は、古紙を原料とした再生製品を使用しています。



リサイクル
段ボール



リサイクル
トイレットペーパー

Topics

ホームページで閲覧できるカタログ

トナミ運輸物品販売事業部は、ペーパーレス化の一環として各種セールのカタログをホームページから閲覧できるようにしています。

また、北陸3県の特産品を扱ったショッピングサイトもありますので、日頃お世話になっている方々への贈答品等にいかがでしょうか。



▶ <http://www.tonami.co.jp/services/sales/>



安全な社会づくりを目指して

トナミホールディングスグループの交通事故防止への取り組みは、事業の中だけでなく地域社会にまで展開し、安全な社会づくりに貢献していきたいと考えています。

輸送の安全に関する基本的な方針

トナミホールディングスグループは、輸送の安全に関する基本的な方針を設定しています。

- ① 当社の安全衛生は、従業員の生活と安全を守ることを基本とする
- ② 常に安全・確実・迅速なサービスを提供する
- ③ 交通事故のない社会を作り上げるための牽引車となるべき行動を取る
- ④ あらゆる機会を利用し、地域の安全推進企業として社会に信頼されるよう模範行動に徹する

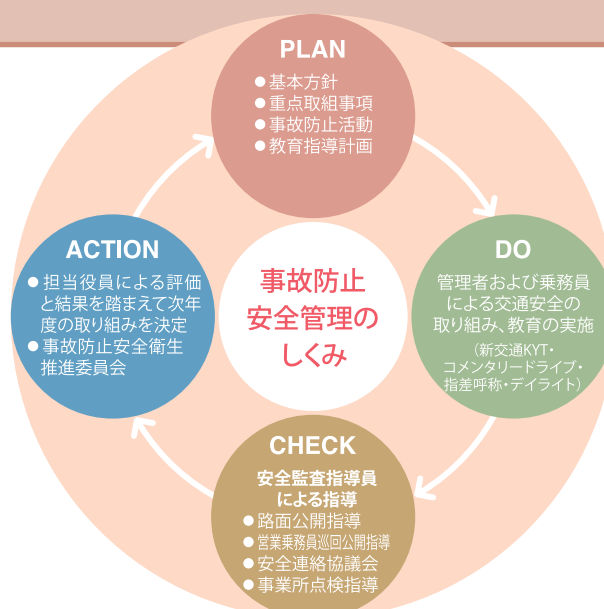
安全管理体制

トナミホールディングスグループの運輸事業会社は、各社ごとに交通事故防止や労働災害防止などを目標として、事故防止安全衛生推進委員会組織を設置し、常に多様な課題に対して討議を行いながら、安全面・衛生面の向上に取り組んでいます。

また、交通安全の取り組みは、PDCAサイクルを回し、継続的な改善を実施することによって、次年度の取り組みにつなげています。

安全管理強化システム

事故防止の強化をはかるため、乗務員一人ひとりに3段階評価を実施し、結果に応じた指導を行う「安全管理強化システム」を推進しています。



- 1 社内規則の遵守状況点検
- 2 運転指導票の発行
- 3 指導教育

運転適性診断車「あんぜん号」

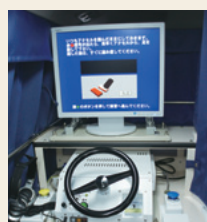


あんぜん号

営業用車両の管理については、日常的に法令を遵守することを基本に、ドライバーとしての適格性を確保・安全運行に努めることを責務として業務に取り組んでいます。

その一環として、あんぜん号の事業所巡回による運転適性診断指導を行っています。

今後とも、ドライバーの一層の安全適性の確保に努め、運輸事業者としての社会的責任を担っていきます。また、地域の交通安全指導にも貢献していきます。



運転適性検査器

新入ドライバーの安全教育

トナミホールディングスグループの運輸事業会社は、トラック運転未経験の新入社員の事故を防止するため、自動車学校の教習コースを使い、運転指導員によるトラック運転技術、整備士からは車両点検について学んでいます。

また、夜間の事故を防止するための居眠り防止や

各種体験教育も実施しています。

座学研修では、いろいろな交通状況を想定し危険を見つける「危険予知トレーニング (KYT)」に重点をおき、性格検査結果による運転指導、面接によるメンタルケアにも取り組んでいます。



安全運転教育



指差呼称運転の指導



車両点検教育

安全啓発活動

東洋ゴム北陸販売では、「4月8日タイヤの日」を安全啓発活動の中心的機会ととらえ、種々の活動を行っています。

本年の活動については、当社タイヤプロいみず店近隣の高齢者福祉関連車両のタイヤ空気圧・タイヤ点検を企画し実施しました。福祉車両の活動状況を考慮し、同店がロードサービスカーにて現地での点検作業を実施しました。

今回点検した車両は日々、対象者の送迎およびケアワークで使用されているということで、タイヤ業界に関わる会社として、地域・老人・子供福祉などの社会活動にいくらかでも協力できれば幸いです。

今後も安全啓発活動の一環ととらえ、引き続き福祉施設を巡回します。



トナミ運輸は、富山県高速道路交通安全協議会の委託を受けて、当社従業員をハイウェイレディとして派遣し、高速道路を利用するドライバーなどの交通安全意識の高揚を目的に、富山県内のインターチェンジやサービスエリアで安全運転を呼びかけています。





人材育成と働きやすい職場づくりを目指して

人事制度、教育制度により、個々の人材を伸ばし、また、職場の安全確保、従業員の「こころ」と「からだ」への配慮を通し、従業員一人ひとりが活躍できる職場づくりを奨励しています。

人材育成・研修制度

トナミホールディングスグループは、「企業は人なり」を教育理念に人材育成に努めています。階層別、職種別研修では挨拶訓練、礼儀作法から知識能力スキルの向上に社内講師のほか外部の専門講師を招き実施



屋外での挨拶訓練

しています。外部セミナー、通信教育を効果的に取り入れ教育効果を高めています。

また、新入社員を育成するメンター教育を実施し、若手社員の育成に力を入れています。



研修風景

女性社員スキルアップ研修

トナミホールディングスグループは、2016年4月に施行された「女性活躍推進法」をきっかけに、職場の女性リーダー（女性管理職）を養成するための研修を実施しています。女性社員のスキルアップと特有の感性を武器に人間力を強化して社内のコミュニケーションの活性化をするとともに指示力、決断力の強化がねらいです。

研修では外部の教育事業会社講師や大学教授の専門的なセミナーを受講し、女性社員の立場からの部下への指示の仕方、問題解決へのマネジメント手順について学んでいます。

参加者コメント



トナミ運輸敦賀営業所
矢野淳子

研修を通じ、自分に足りなかったものや、女性リーダーとして目指すべき姿をはっきりさせることができました。責任感が強く、前向きな他の受講者たちからも、大きな刺激を受けました。この研修で得たものを今後の仕事に生かしていきたいです。

『10WAVEスクール』の発行

トナミホールディングスグループは、毎月1日と15日を「教育の日」と定め、情報紙を月2回発行しています。知っているようで知らない一般常識、社会経済、業界の知識や社内情報を発信し、社員が気軽に読めるよう目を引く見出しにしています。事業所等で社員の知識やモラル向上のための教育ツールとして愛用されています。



安全な職場づくりを目指して

トナミ運輸・トナミ運輸信越・トナミ運輸中国は、従業員が安全に安心して働ける労働環境を整備するため、各事業所において「事故防止安全衛生推進委員会」を設置しています。職場における従業員の安全を確保することは、従業員およびその家族の幸せ、またお客様へのサービス、品質の維持・向上の観点からも重要な取り組みです。企業の財産である従業員への安全衛生対策の強化に取り組み、安全が確保された職場づくりに努めています。



朝礼点呼

人事制度

トナミホールディングスグループは、従業員の活力を高め、会社のさらなる成長と発展をはかるため、従業員一人ひとりの個性を尊重し、それぞれに役割を与え、それを軸に適正な評価と処遇を行い、自己の能力を伸ばすよう努めています。

ワーク・ライフ・バランス

トナミ運輸・トナミ運輸信越・トナミ運輸中国は、誕生月には「誕生日有休」を設定し、年次有給休暇の計画取得を促進しています。2015年4月から、1日増の2日間となりました。

また、勤続15年以上の従業員には、勤続年数に応じ最高で4日間の「リフレッシュ休暇制度」があり、奨励金の支給も行っています。

これらの取り組みにより、従業員が家庭生活や個人の趣味などの時間を確保できるよう、職場環境を整えました。

「こころ」と「からだ」の健康づくり

トナミホールディングスグループは、従業員の健康を守るため、健康診断実施後のフォローとして、二次健診の100%受診を徹底しています。要精密検査と判定されたら必ず受診するよう、職場の上司が指示する体制づくりを整え、重症化を防ぐための取り組みを行っています。また、経年変化をとらえ的確なアドバイスができるようにと、全員の健診結果を登録管理し、健診結果に基づいて産業医による受診指導や保健師等による保健指導を実施しています。

こころの健康づくりについては、全従業員を対象に年1回ストレスチェックを実施し、医師による面接指導やカウンセラーによる電話相談窓口を開設しています。従業員自身のストレスの気付きを促し、予防に役立てることと、集団分析を行い、職場環境の改善や働きやすい職場づくりを行うため活用しています。

高齢者雇用の取り組み

トナミホールディングスグループは、継続雇用制度の適用など、定年後の従業員に対する労働環境整備の取り組みも進めています。また、トナミ運輸・トナミ運輸信越・トナミ運輸中国は、2016年度から定年を61歳から62歳に引き上げました。

ライフデザインセミナー

トナミ運輸・トナミ運輸信越・トナミ運輸中国は、定年後の第2の人生を支援するため、定年2年前の方を対象に会社・労働組合・企業年金基金共催によるライフデザインセミナー（研修会）を開催しています。



年金制度の説明を受ける参加者



コーポレートガバナンス体制

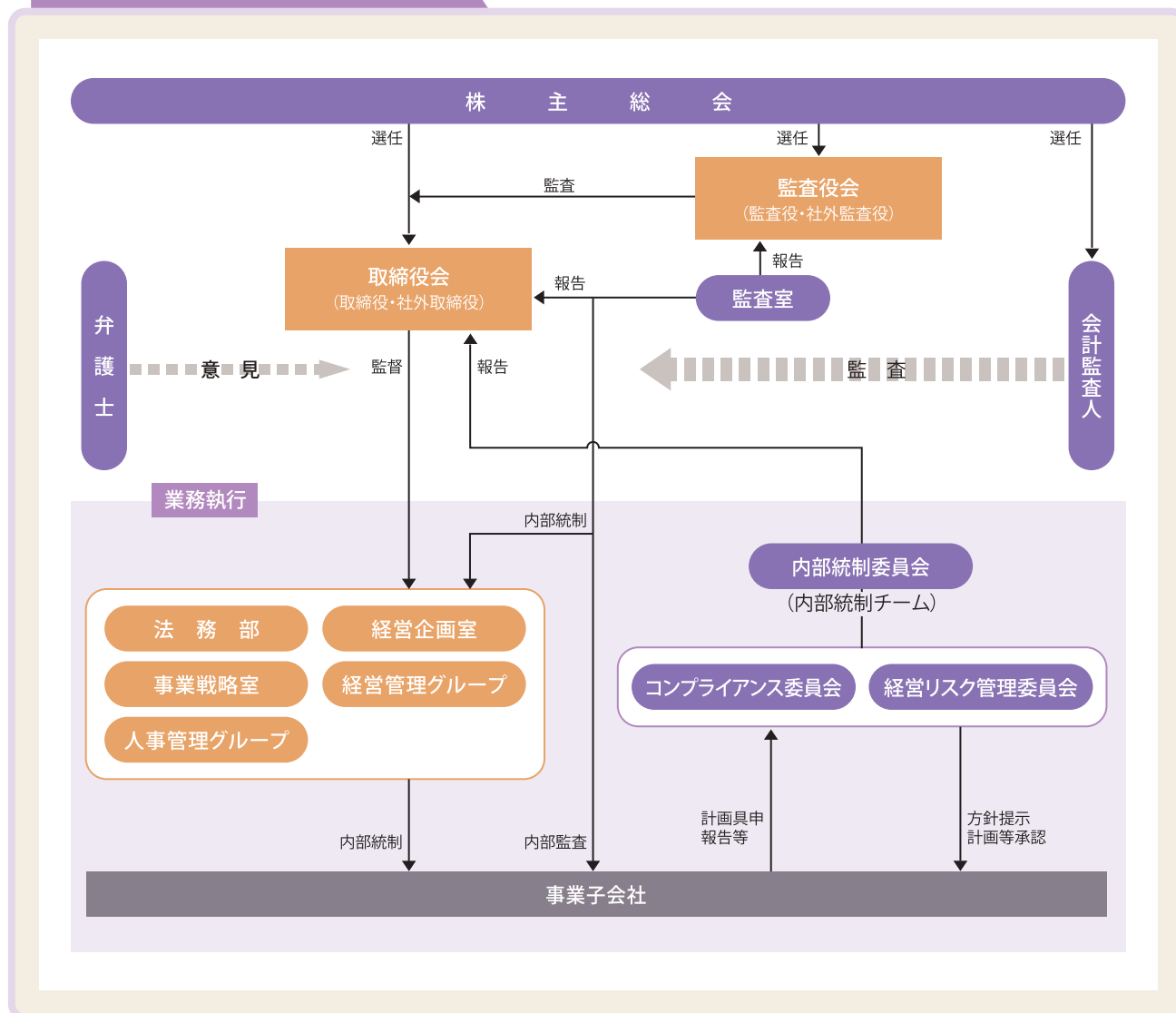
トナミホールディングスグループは、社会・ステークホルダーから信頼される企業としての体制を整備し、事業のさらなる価値創造を目指します。

コーポレートガバナンスの状況

トナミホールディングスの内部統制の基本方針については、2008年10月1日開催の取締役会で決議し、その基本方針に基づき内部統制委員会が中心と

なって、健全な内部統制システムの構築をはかり、トナミホールディングスグループの企業価値向上にむけて取り組んでおります。

コーポレートガバナンス体制組織図



1 会社の機関の内容及び内部統制システム

トナミホールディングスは、経営方針及び経営戦略に関わる重要事項を担当する機関として、社外取締役2名を含む9名で構成する取締役会を設置しております。

取締役会は、取締役会規則に基づいて月1回これを開催することを原則とし、その他必要に応じて随時開催して、取締役会の意思疎通をはかるとともに相互に業務執行を監督し、必要に応じて外部の専門家を起用し、法令定款違反行為を未然に防止することといたしております。

また、内部統制構築の一環として、監査役制度を採用しており、常勤監査役2名、社外監査役2名の4名体制で構成し、監査役は取締役会及びその他重要会議への出席や意見の具申等で取締役の適法性について監査しております。

取締役の職務執行については、監査役会の定める監査の方針及び分担に従い、社外監査役を含め各監査役の監査対象となっております。

取締役が他の取締役の法令定款違反行為を発見した場合は、直ちに監査役及び取締役会に報告し是正をはかることとしており、内部監査部門として業務

執行部門から独立した監査室を置いております。

なお、一般株主との利益相反が生じるおそれのない独立役員2名を選任し、外部の視点での取締役会の監督機能の強化をはかることとしております。

さらに、コンプライアンス体制の基礎として「トナミグループ社員行動規範」を定め、意思決定機関として社長を委員長とする内部統制委員会を設置し、内部統制担当役員を中心とする内部統制システムの向上をはかっております。

コンプライアンスの統括組織としてコンプライアンス委員会を設置し、内部統制チーム（監査室内）が内部統制体制の維持・向上のための統括・運営・研修を実施しております。

事業子会社における業務の適正を確保するため、グループ事業子会社すべてに適用する行動指針として「トナミグループ社員行動規範」及び、「グループ運営規程」を定めるとともに、これを基礎として、グループ事業子会社で諸規程を定めております。なお、経営管理については、「グループ会社管理要領」により、承認・報告事項を定め、事業子会社経営の管理を行っております。

2 内部統制システムの整備の状況

トナミホールディングスグループの内部統制システムの整備状況にあたっては、経営リスクマネジメントに関する基本方針を定め、事業子会社の運営に影響を及ぼすおそれのある様々なリスクへの適切な対応を行い、経営基盤の安定化をはかるとともに、万が一、経営リスクが発生した場合の影響を極小化し、トナミホールディングスグループの損失及び社会的損失をできる限り発生させないよう取り組んでおります。

さらに、コンプライアンスの重要性を認識し、コンプライアンス委員会を設置し、「トナミグループ社員行動規範」に基づき、トナミグループ事業子会社の役員社員に企業倫理と法令遵守を浸透させるため推進担当者を選任し、コンプライアンスに関わる教育説明会を実施しております。

また、企業活動において、あらかじめ違反行為が起こり得る可能性を抽出し、未然防止をはかるよう推進状況を報告させ、違反行為が発生した場合は早期に解決し、再発防止を講ずるコンプライアンス体制を構築しております。

なお、取締役会が決定した基本方針に基づき、速やかな業務執行に努めており、経営に関する法令遵守事項等については、必要に応じて公認会計士や弁護士等の専門家から助言を受け参考としております。

そして、「グループ運営規程」を基礎として、グループ事業子会社各社で諸規程を定め、「グループ会社管理要領」により承認・報告事項を定め、事業子会社の経営管理を行うことにより、経営環境の変化に速やかに対応する体制を整え、経営の健全化に努めております。

また、業務執行が適切で効率よく行われているかについては、監査室による内部監査を実施し、監査役及び取締役会に報告を行っております。

反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を持たないこととしております。また、不当要求等の介入に対しては、警察等の外部専門機関との緊密な提携のもと、関係部署が連携・協力して組織的に対応し、利益の供与は絶対行わないこととしております。



法および社会倫理の遵守

トナミホールディングスグループは、コンプライアンス体制とリスク管理体制を構築し、誠実かつ透明性の高い経営を目指しています。

コンプライアンス体制の整備

トナミホールディングスグループは、遵法および倫理の観点から、役員社員が心がけるべき基本事項を、「社員行動規範」として定めています。2015年6月には法務部を設置し、法的リスクへの適切かつ機動的な対応を強化しました。

コーポレートガバナンス体制の一環としてコンプライアンス委員会、その傘下に事業子会社のコンプライアンス部会を設置しています。

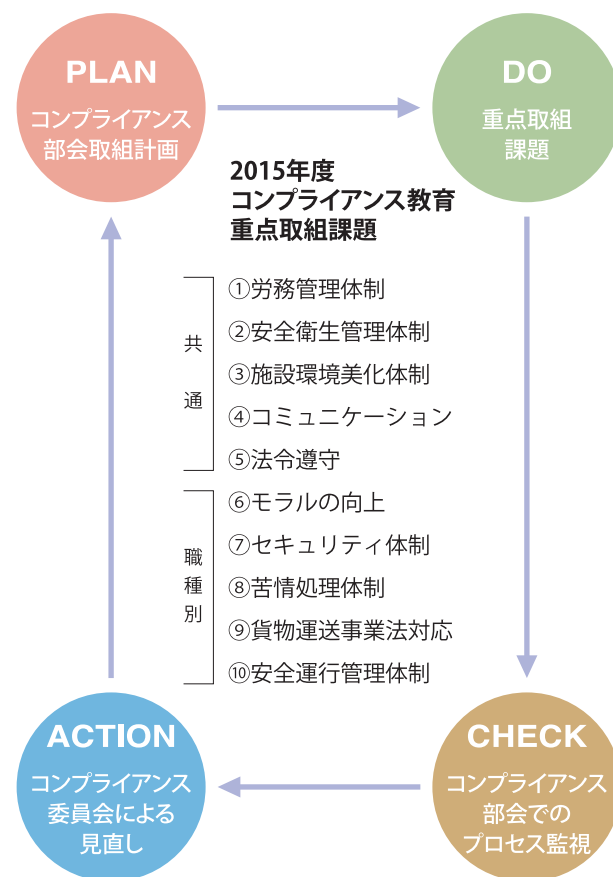
トナミホールディングスグループ社員行動規範

- ① お客様に、常に安全・確実・迅速な物流サービスを提供します。
- ② 地球環境を守るために、物流サービスのあらゆる段階において環境負荷低減に努めます。
- ③ 輸送活動にあたって、法・社会倫理・社内規程を遵守します。
- ④ 公正な企業活動を行います。
- ⑤ 整理・整頓を心がけ、清潔を保って快適な作業環境を維持します。
- ⑥ 基本的人権を尊重し、良好な職場環境を維持します。
- ⑦ 企業情報・得意先情報・個人情報の保護に細心の注意を払います。
- ⑧ 得意先の価値創造に役立つコンセプトを構想、提案します。
- ⑨ コンピューター・ネットワークの不正な利用・業務目的以外の使用をしません。

コンプライアンス教育の重点取り組み課題

2015年度のコンプライアンス教育は、重点取り組み課題としてトナミホールディングスグループ各社の業務に密接に関係する法令や事象を基にして、全職種共通テーマと職種別テーマの10項目について、コンプライアンス委員会の各部会ごとに教育を実施しました。

その教育の実施状況について、各部会ごとに結果報告を求め、コンプライアンス委員会で評価を行い、マネジメントレビューを実施しました。今後とも定期的にPDCAサイクルを回すことによって継続的にコンプライアンス意識の向上をはかります。



リスク管理体制の整備

トナミホールディングスグループは、経営リスクマネジメント方針を定め、社長を最高責任者とする経営リスク管理委員会を設置し、事業運営に影響を及ぼすさまざまなリスクに対応するために「トナミホールディングスグループ経営リスクマネジメント管理規程」を制定しています。

経営リスクマネジメント方針

トナミホールディングスグループは、自然災害、事故などの人為的災害、及び経営上の様々なリスクに的確に対処し、経営目標の達成を阻害するすべての要因を可能な限り防止し、排除することにより、社会的責任を果たす。

経営リスクマネジメント行動指針

- ① 経営リスクマネジメントに関する計画を策定し、実施する。
- ② 当社の役員及び従業員等及び関係者の安全・健康を確保する。
- ③ 当社の資産の保全を図る。
- ④ 経営リスクが顕在化した場合には、責任ある行動をとる。
- ⑤ 被害が発生した場合には、速やかな回復を図る。
- ⑥ 経営リスクに関連する社会的要請を当社の経営リスクマネジメントシステムに反映する。

個人情報保護の取り組み

トナミホールディングスグループは、2005年4月の個人情報保護法の施行に伴い、個人情報の適切な利用と保護のための実践遵守基準を明確にした「個人情報保護コンプライアンスプログラム」を制定しています。

お客様や取引先の個人情報の利用目的の適正利用を原則として、細心の注意をもって、責任ある取り扱いに努めています。

また、2016年1月からのマイナンバー制度の本格的な運用開始に向けて、トナミホールディングスグループは、「特定個人情報の適正な取扱いに関する方針」

ISMS認証取得

トナミホールディングスグループは、お客様の個人情報や情報資産の管理強化、サービスの安全性・信頼性の一層の向上をはかるため、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) 認証取得を奨励しています。

トナミ運輸は、2007年3月および2012年6月、KSRは2009年8月にISMSの認証を取得しました。



ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014認証取得済
上記は、インターネットプロバイダ業務およびデータセンター運用サービスのものです。

公益通報者保護法への対応

トナミホールディングスは、グループ会社も含めた「トナミホールディングスグループ社内通報規程」を制定しています。監査室を通報・相談窓口として、①通報者の保護、②グループ内に潜むリスクの早期発見、③不正通報の濫用の抑止などに努めています。

および「特定個人情報等取扱規定」を作成し、マイナンバーをはじめとする特定個人情報の管理について、必要かつ適切な安全管理措置を行う体制を確立しました。

今後も特定個人情報を取扱う事務従事者への教育を実施し、特定個人情報が適切に管理運用されるよう徹底していきます。

トナミホールディングスは、プライバシーポリシーをホームページ上で公開しています。
<http://www.tonamiholdings.co.jp/privacy/>



会社概要

(2017年1月31日現在)

商 号 トナミホールディングス株式会社

設 立 1943年6月1日

資本金 14,182百万円

本 社 〒933-8788 富山県高岡市昭和町3丁目2番12号

- 連結子会社
- 非連結持分法非適用子会社
- 持分法適用関連会社
- 持分法非適用関連会社

情報処理事業

- トナミ運輸(株)
- KSR(株)

販売事業

物品販売並びに委託売買業

- トナミ運輸(株)
- 関東トナミ運輸(株)
- 東洋ゴム北陸販売(株)
- トナミ商事(株)

損害保険代理業

- トナミ運輸(株)
- トナミ商事(株)

総合リース業

- トナミ商事(株)

その他

自動車修理業

- トナミ運輸(株)
- トナミ運輸信越(株)
- トナミ運輸中国(株)



ダイレクトメール業

- 関東トナミ運輸(株)

その他事業

- トナミビジネスサービス(株)
- 中央冷蔵(株)

その他事業

- (株)トナミ自動車科学研究所
- TONAMI(THAILAND) Co.,Ltd.
- (株)ジェスコ
- 高岡ケーブルネットワーク(株)
- アルハイテック(株)

旅行業

- トナミ商事(株)

物流関連事業

貨物自動車運送事業

- | | | |
|---------------|-------------------------------|--------------------|
| ■ トナミ運輸(株) | ■ トナミ第一倉庫物流(株) | ■ 高岡通運(株) |
| ■ トナミ運輸信越(株) | ■ 福井トナミ運輸(株) | ■ 東砺運輸(株) |
| ■ トナミ運輸中国(株) | ■ 新潟トナミ運輸(株) | ■ ジャパン・トランズ・ライン(株) |
| ■ 関東トナミ運輸(株) | ■ 阿南自動車(株) | |
| ■ 北陸トナミ運輸(株) | ■ トナミ国際物流(株) | |
| ■ トナミ首都圏物流(株) | ■ Mahaporn Transport Co.,Ltd. | |
| ■ トナミ近畿物流(株) | ■ 托納美物流(大連)有限公司 | |
| ■ 石川トナミ運輸(株) | ■ H&R Forwarding Co.,Ltd. | |
| ■ 北関東トナミ運輸(株) | ■ 北海道トナミ運輸(株) | |



貨物利用運送事業

- | | | |
|---------------|----------------|---------------------------|
| ■ トナミ運輸(株) | ■ 石川トナミ運輸(株) | ■ 托納美物流(大連)有限公司 |
| ■ トナミ運輸信越(株) | ■ 北関東トナミ運輸(株) | ■ H&R Forwarding Co.,Ltd. |
| ■ トナミ運輸中国(株) | ■ トナミ第一倉庫物流(株) | ■ 北海道トナミ運輸(株) |
| ■ 関東トナミ運輸(株) | ■ 福井トナミ運輸(株) | ■ 高岡通運(株) |
| ■ 北陸トナミ運輸(株) | ■ 新潟トナミ運輸(株) | ■ 東砺運輸(株) |
| ■ トナミ首都圏物流(株) | ■ 阿南自動車(株) | |
| ■ トナミ近畿物流(株) | ■ (株)テイクワン | |

倉庫業

- | | |
|--------------|----------------|
| ■ トナミ運輸(株) | ■ 関東トナミ運輸(株) |
| ■ トナミ運輸信越(株) | ■ 新潟トナミ運輸(株) |
| ■ トナミ運輸中国(株) | ■ トナミ第一倉庫物流(株) |
| ■ 京神倉庫(株) | |
| ■ 中央冷蔵(株) | |



港湾運送事業

- トナミ国際物流(株)



トナミホールディングス株式会社

〒933-8788 富山県高岡市昭和町3-2-12
TEL (0766) 32-1073 FAX (0766) 32-1077
URL <http://www.tonamiholdings.co.jp/>
(本報告書はホームページでもご覧いただくことができます。)



本冊子は再生紙を使用しています。

2017年2月発行